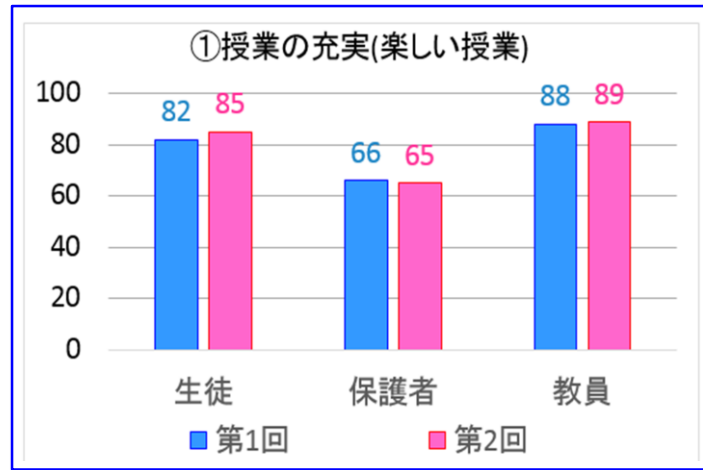
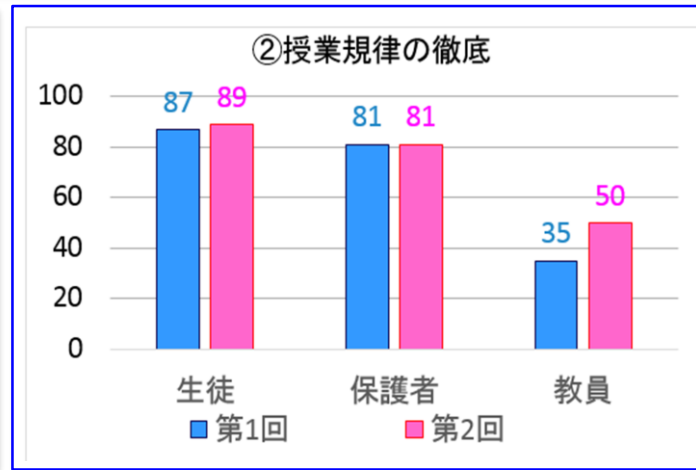


令和元年度 第2回 学校関係者アンケートの結果について(表面)

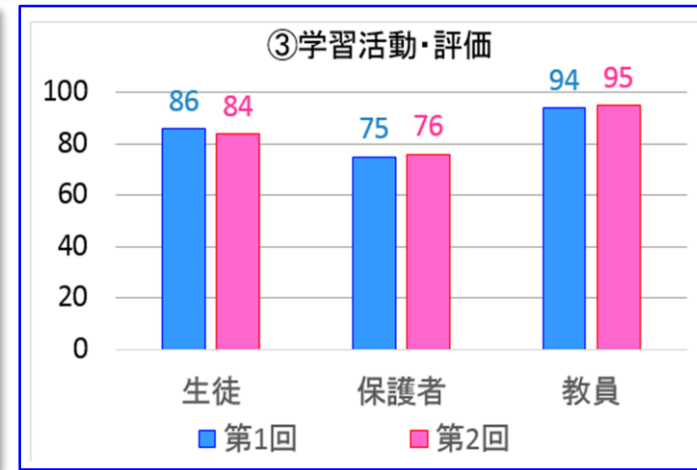
令和元年 12月 17日
東大和市立第五中学校



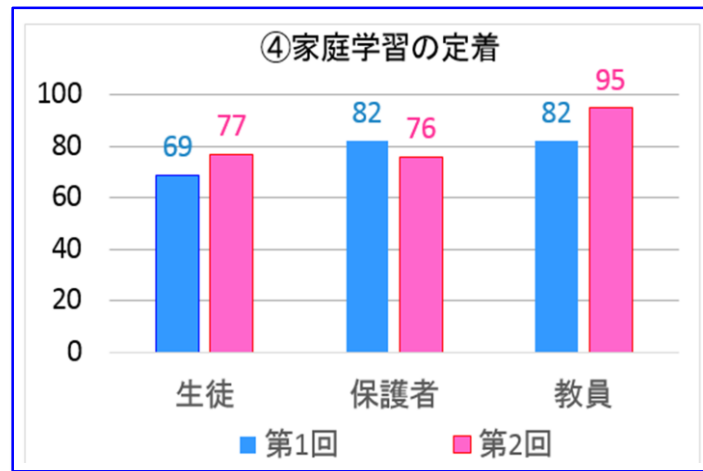
【分析】
生徒の肯定的な回答は平成29年度より継続して増加しているが、保護者の満足度の微減が継続している。



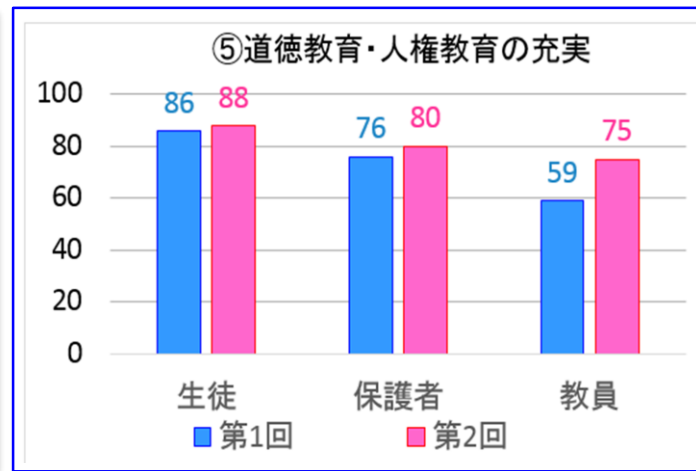
【分析】
生徒と保護者ともに授業規律は保たれているととらえている。教員は1学期の授業規律に強い危機感があったことから、2学期の取組みが深まったことが考えられる。



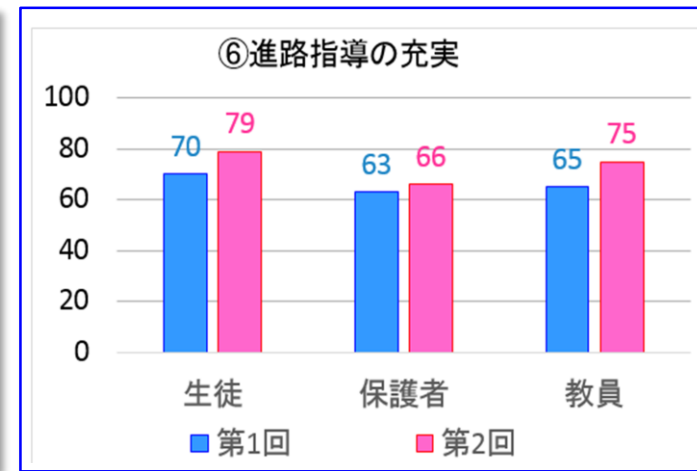
【分析】
今年度から定期考査を廃止して単元テストに移行したことにより、日常的に学習内容の振り返りをするのが功を奏していると考えられる。



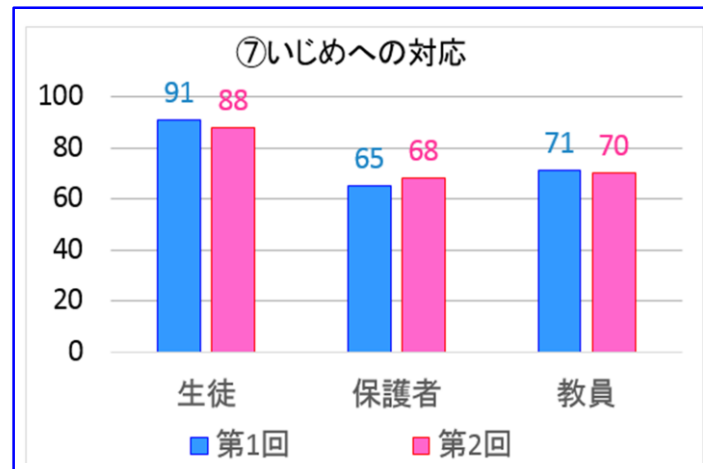
【分析】
家庭学習記録シートの提出率が高まり、本シートの分析から家庭学習の時間が全学年で増加している結果が表れていると考えられる。



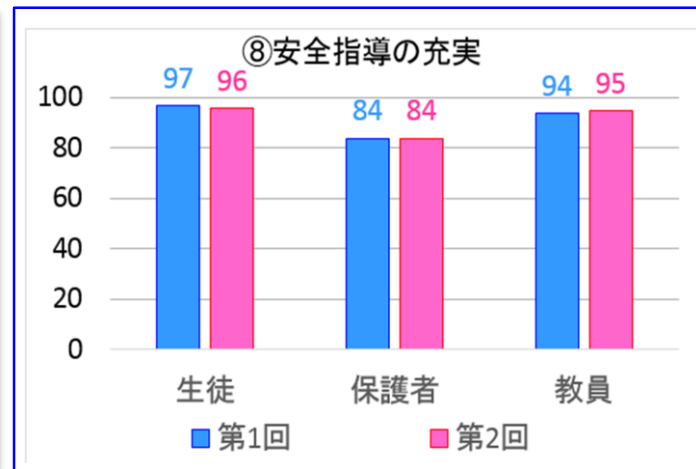
【分析】
道徳の時間を要として、学校の全ての教育活動の中で生徒の心の種の発芽を促していることが表れていると考えられる。



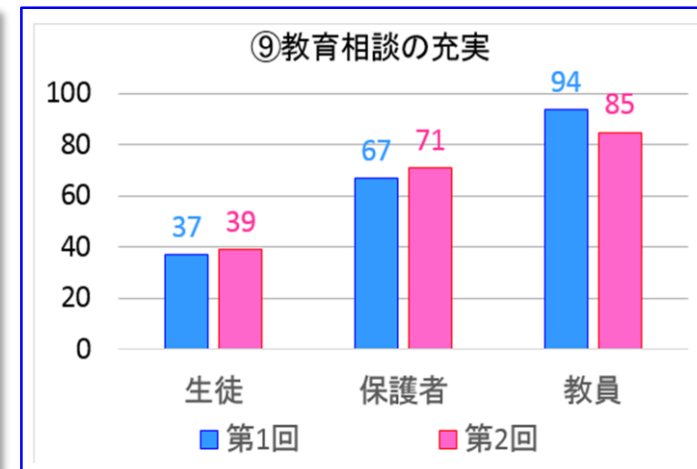
【分析】
職場体験後の発表会や上級学校訪問の取組みをとおして、生徒に進路のめあてが深まっていると考えられる。



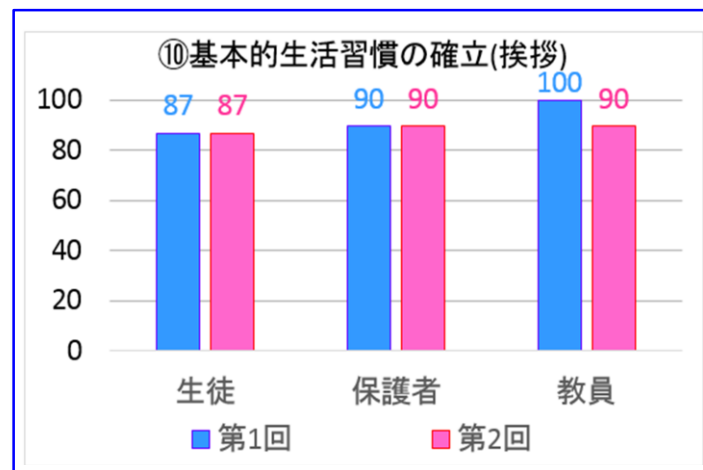
【分析】
SNS等のトラブルが顕在化している中、保護者への啓発は深まりつつあるが、生徒は問題が解決されないにとらえていることが考えられる。



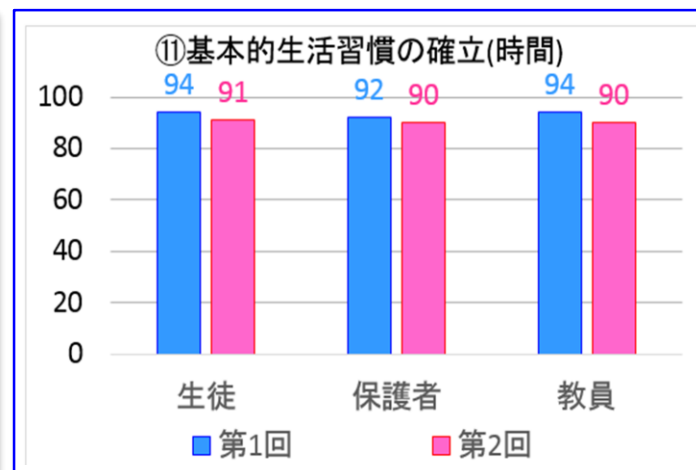
【分析】
学校では毎月の安全指導を徹底していることから、生徒と教員の肯定的な回答が高いと考えられる。



【分析】
生徒のスクール・カウンセラーや教員等への相談が深まらないことが考えられる一方、人間関係を測る調査では相談を寄せるので、相関を分析する必要がある。



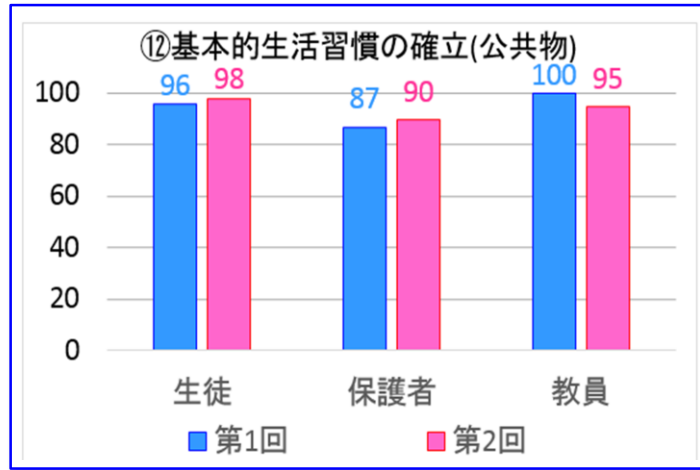
【分析】
挨拶の奨励の取組みは、教員と家庭で共有できていると考えられる。



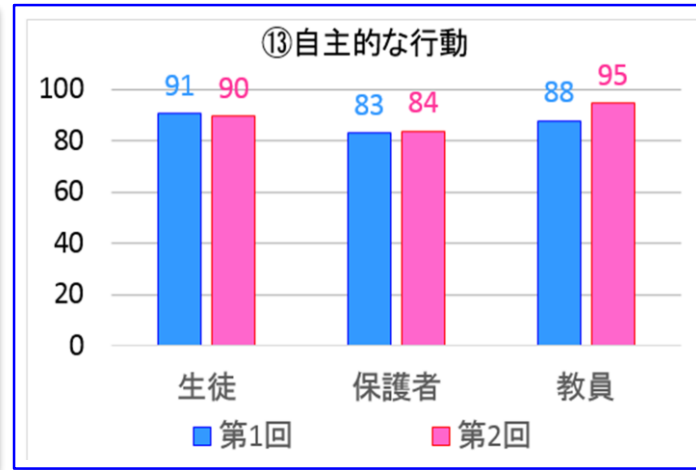
【分析】
時間を守ることにについて教員と家庭共に肯定的な回答が微減している。2学期の校内では、小走りする生徒が見かけられたので、生活態度の振り返りが必要である。

【グラフの見方】

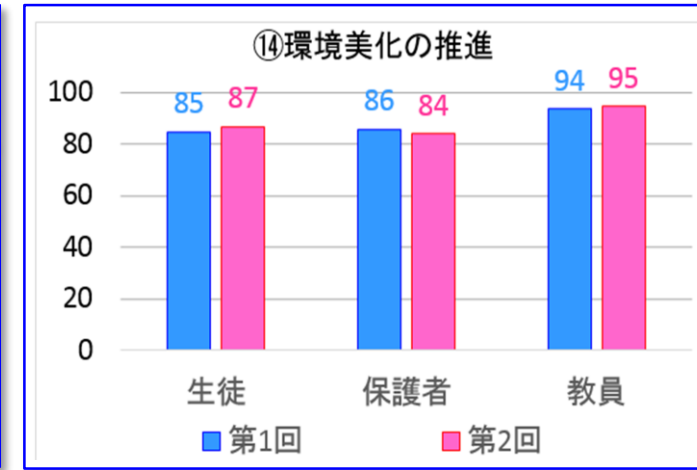
- 単位
百分率(%)
- グラフ上部の数値ラベル
肯定的な回答(A層とB層)の合計値
A層:「とてもそう思う」
B層:「どちらかといえばそう思う」
C層:「どちらかといえばそう思わない」
D層:「そう思わない」



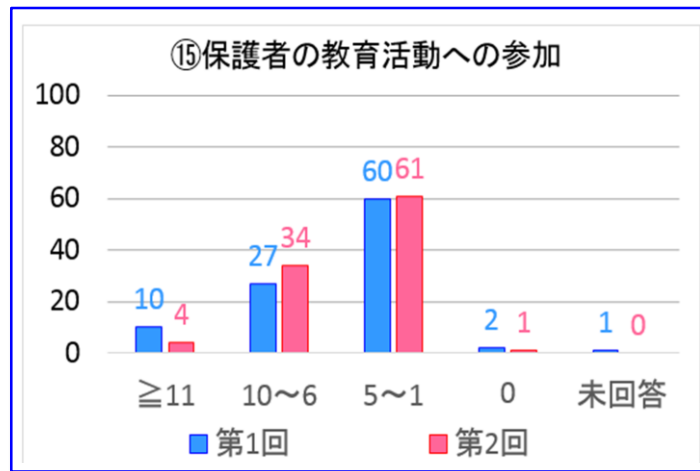
【分析】
校内環境が清潔に保たれていることから、肯定的な回答が高まっていると考えられる。



【分析】
授業開始 3 分前行動や朝礼時の移動等、生徒の自主的な行動が表れていると考えられる。



【分析】
校内環境は肯定的な回答が平成 29 年度から継続して微増している。



【分析】
保護者の学校行事や学校公開日への参加率が高まっている。